

大学の講義と卒業後の進路に関する趨勢

——2009・2010・2011年の卒業生調査データを用いて——

西丸良一

1. はじめに

本稿は、これまでにおこなわれてきた卒業生調査において、繰り返し学生に質問しつづけた項目に焦点をあて、3年間の趨勢をみていく。

繰り返し質問しつづけた項目のうち、ここで注目するものは、「大学の講義に関すること」と「卒業後の進路に関すること」である。卒業生調査に使用した調査票にもあるように、この調査は「同志社大学での教育と学生生活を評価してもらい、皆さんの後輩への教育を改善するために役立て」ることを目的としている。3年間という短期間ではあるものの、大学の講義に対する卒業生の評価を趨勢でみることは、大学における教育がどれほど改善したかを示すことになるといえる。

同様に、短期間とはいえ、この3年間は、卒業後の進路において大きな変化をおよぼした期間といえる。依然として同志社大学は、相対的に就職しやすいのかもしれないが、何らかの変化があらわれている可能性が高い。こうしたことから、卒業後の進路に関しても3年間の趨勢をみることは、かなり重要であるといえる。

2. 大学の講義の様子（図1～5）

まず、大学の講義の様子をあらわす質問項目をみていこう。一貫した傾向を示す項目は、図2の「提出物への添削やコメント」の頻度がやや増加していることである。その他の項目に関しては、安定した回答傾向を示しているといえる。学部名が変わるような、カリキュラムの大幅な変更がない限り、これら傾向に大きな変化は生じないのであろう。

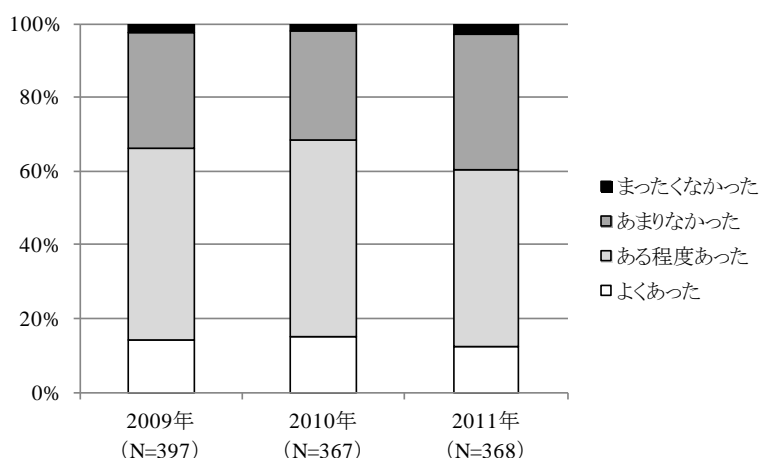


図1 学生による発表や討論

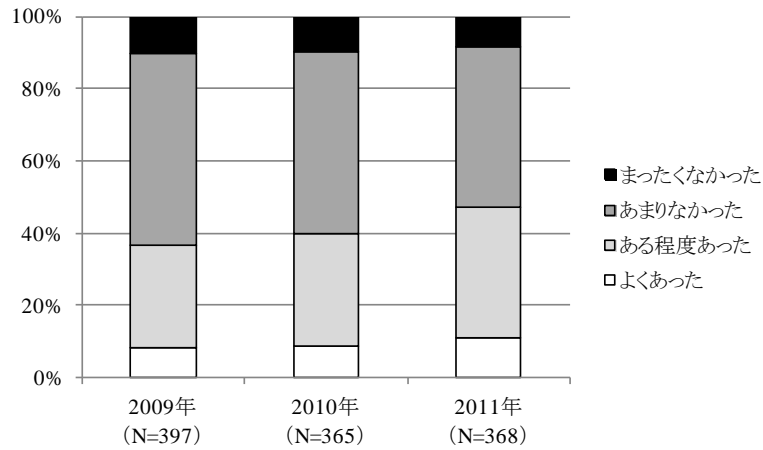


図2 提出物への添削やコメント

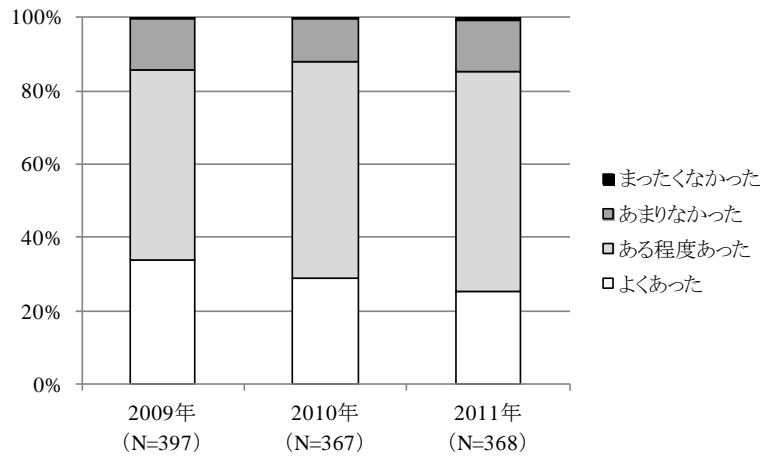


図3 文献や資料を調べる

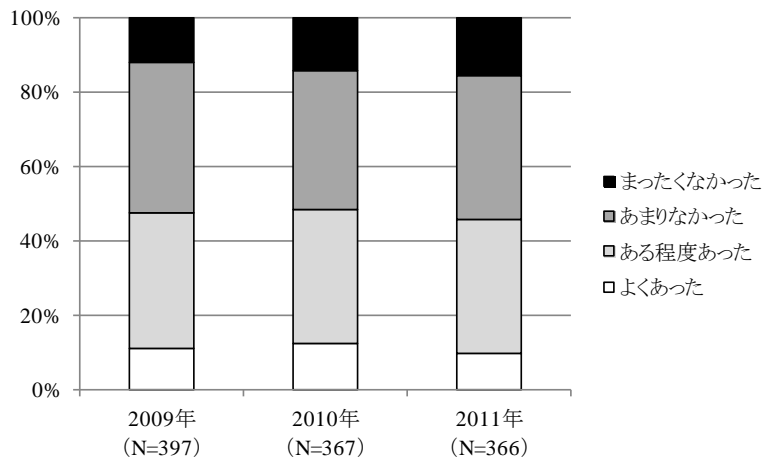


図4 実習やフィールドワーク

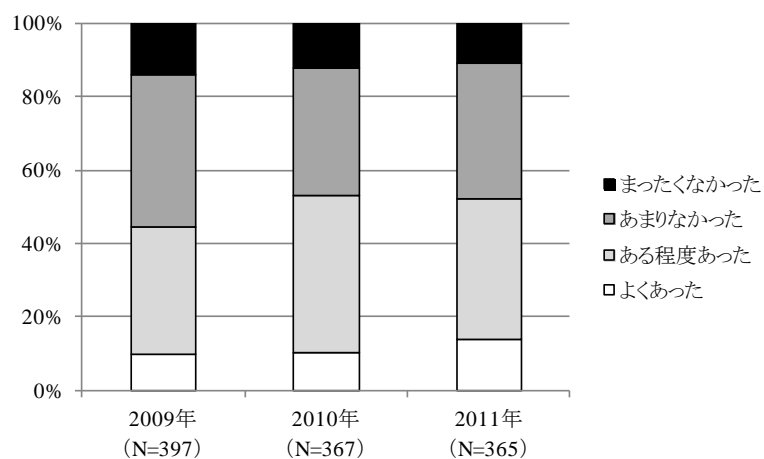


図5 TA・SAの授業補助

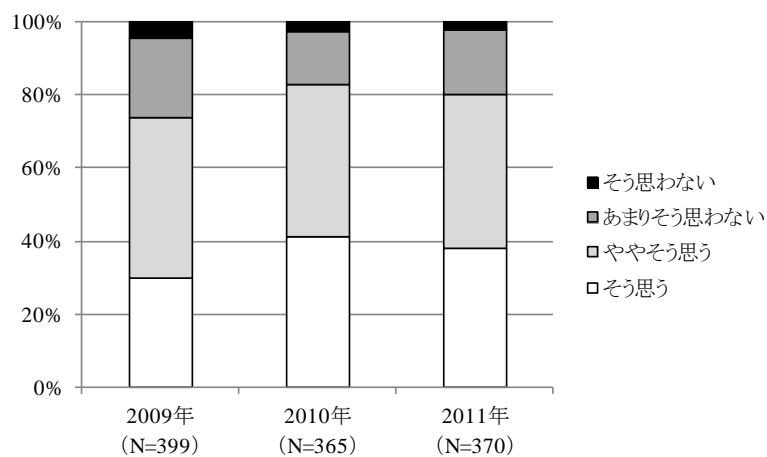


図6 気軽に相談できる

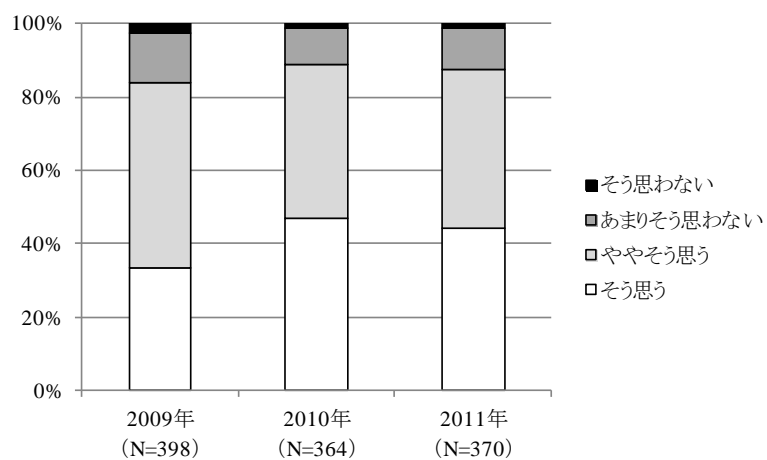


図7 的確なアドバイスをくれる

3. 教員について (図 6~8)

教員との接し方について3つの質問項目の示す傾向は、2009年に比べ、一貫して2010・2011年の方で肯定的な回答となっている。これら質問項目に対して、学生はおそらく少人数で受講したものを思い出しながら回答していると考えられる。そのため、これら傾向はゼミや実習における学生と教員の間柄をあらわしているといってもいいだろう。

4. 講義への取り組み方 (図 9~13)

一貫した傾向を示すのは、図 13 の「遅刻・欠席」の頻度が増加傾向にあることだ。これに関しては、おそらく大教室における講義に生じやすいことであると考えられる。出欠をとるなど何らかの方法を講じれば、「遅刻・欠席」をいくらか減少させることは可能であろう。しかし、大学の講義における本質やその負担を考慮すれば、あまり意味はないものだと考える。

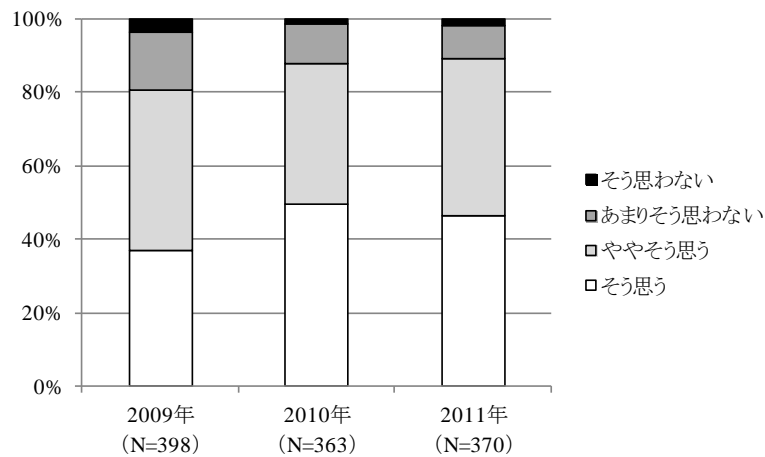


図 8 意見を尊重してくれる

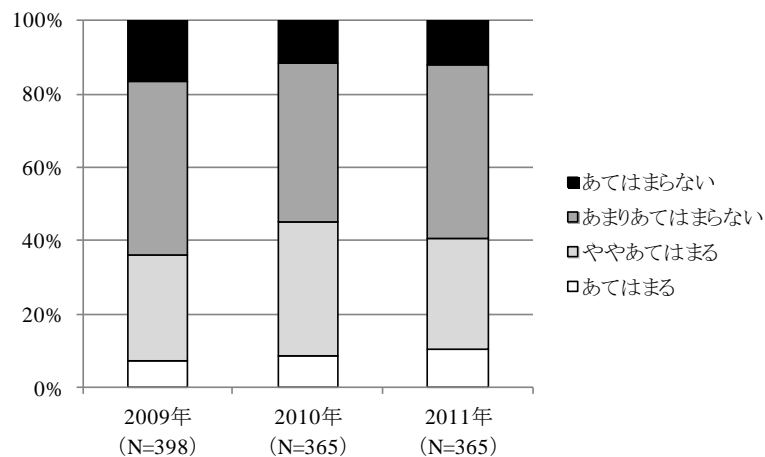


図 9 教員に質問

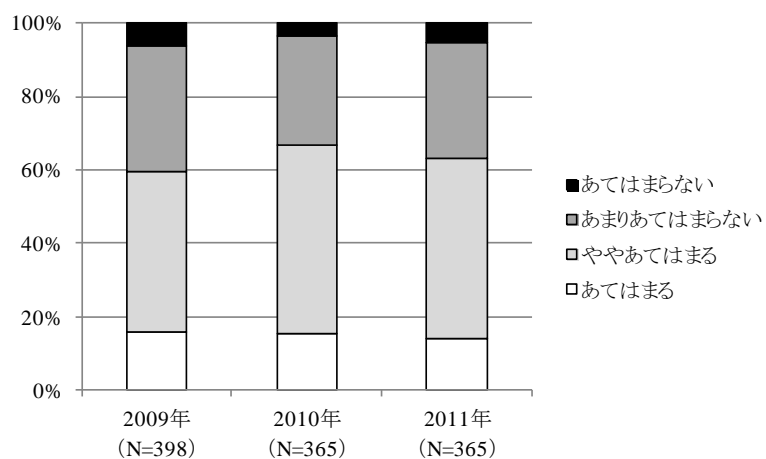


図 10 ディスカッションに参加

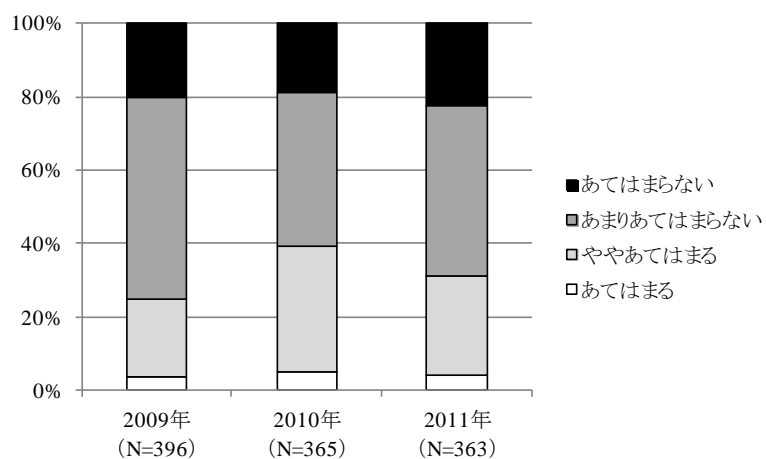


図 11 予習・復習

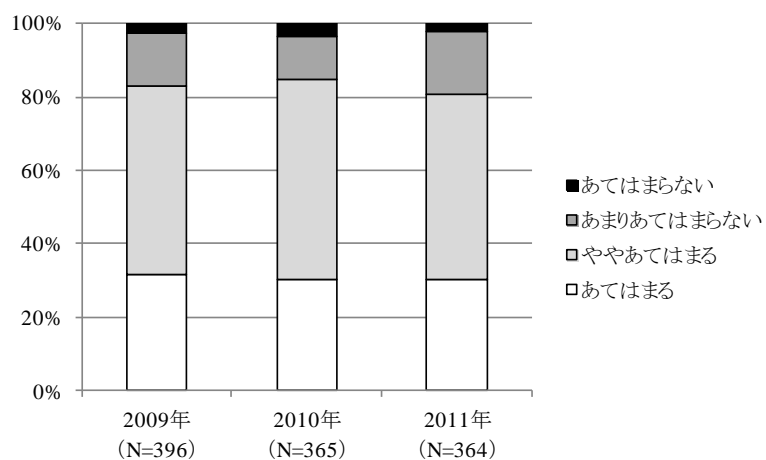


図 12 ゼミ発表の準備

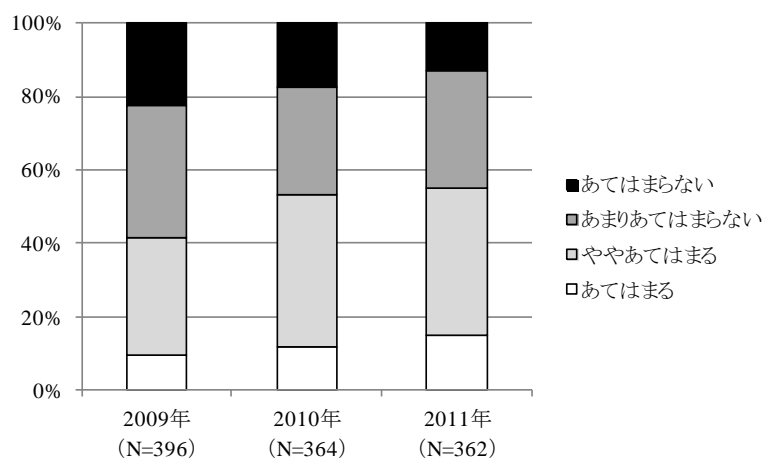


図 13 遅刻・欠席

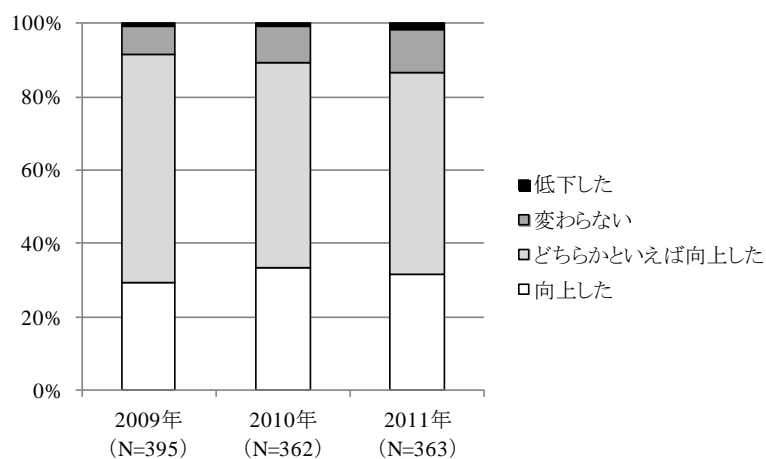


図 14 根拠を示し簡潔に書く

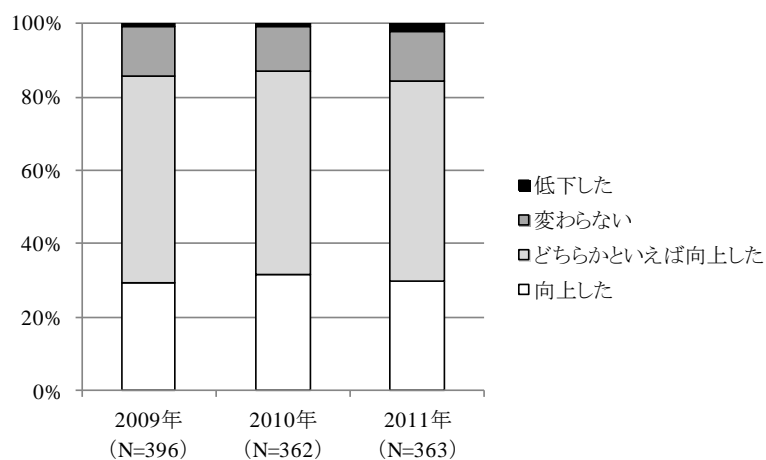


図 15 考えや意見を他人に伝える

5. 講義を通して向上した能力（図 14～21）

主観的評価ではあるものの、全体的に「向上した・どちらかといえば向上した」と答える傾向となっている。「外国語」に関する分析結果である図 20 をみると、「低下した」と答える学生が多い。外国語でおこなう講義やゼミを増やすなどすれば、改善されるのかもしれない。

6. 講義の満足度（図 22～24）

卒業論文にむけて履修する 3・4 年次のゼミの満足度（図 23）は、比較的高いにも関わらず、ファーストイヤーセミナーや大学で受けた講義全般に対する満足度は低い。各学生がそれぞれ関心のあるテーマを研究することや、教員との距離感が近いほど満足感は高くなっているといえるのかもしれない。

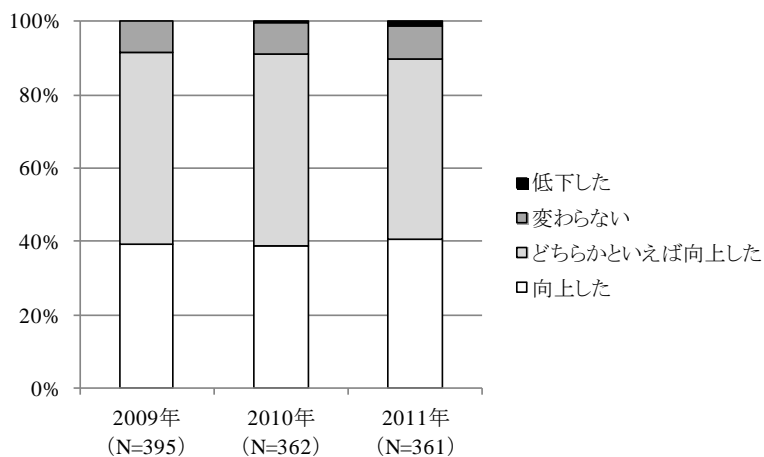


図 16 物事を多面的に考える

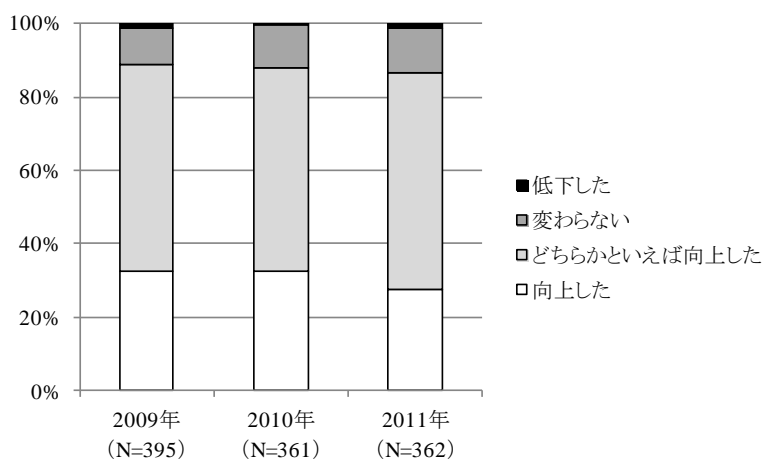


図 17 文献や資料を読み解く

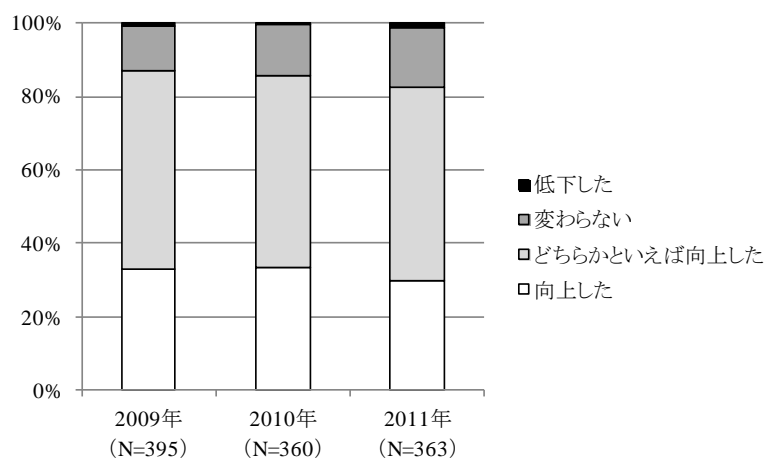


図 18 文献や資料を探す

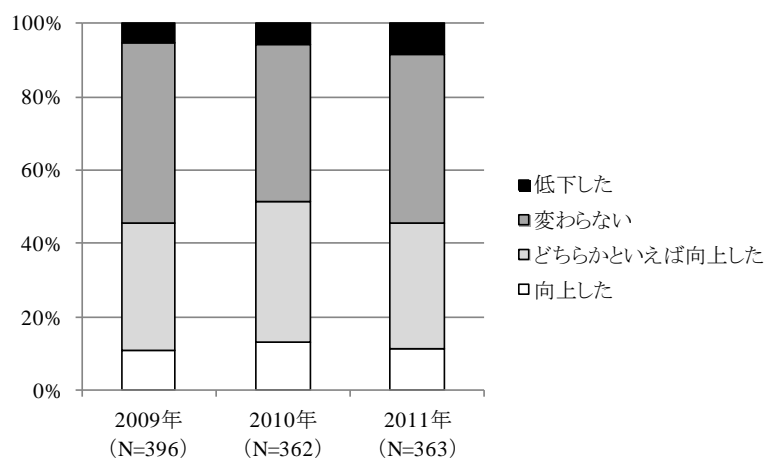


図 19 数量的に分析する

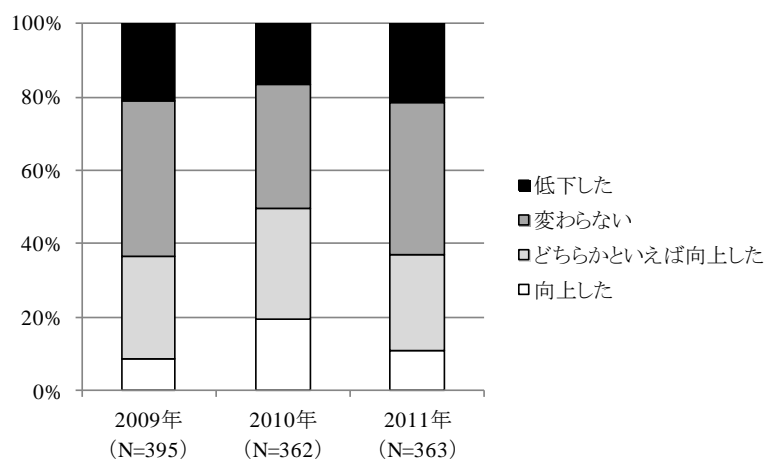


図 20 外国語

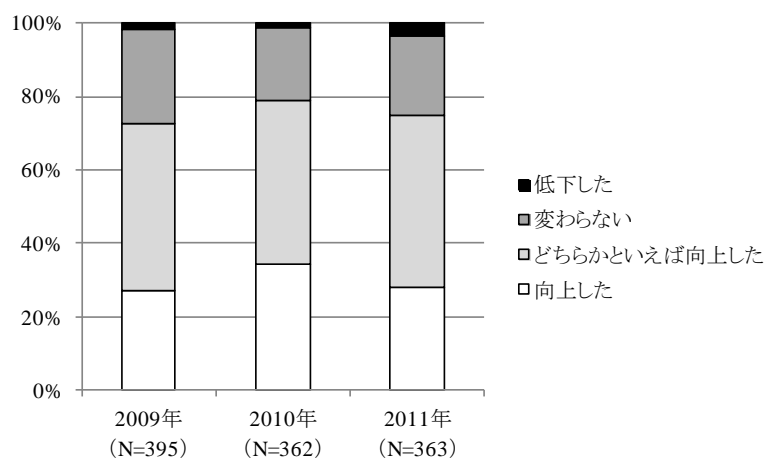


図 21 異文化の理解

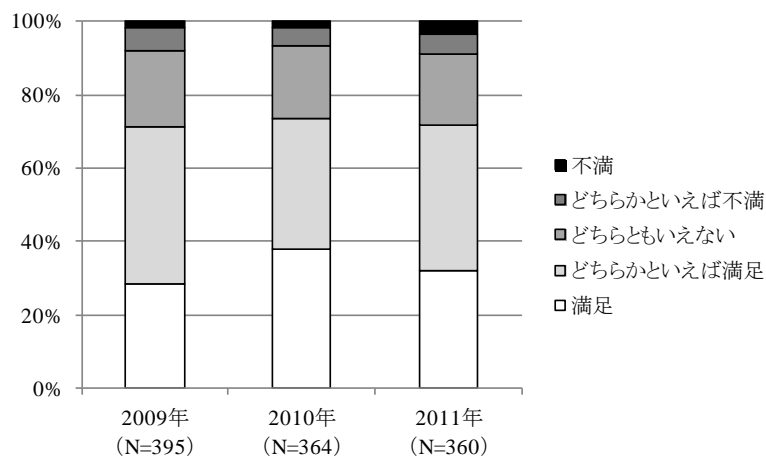


図 22 ファーストイヤーセミナー

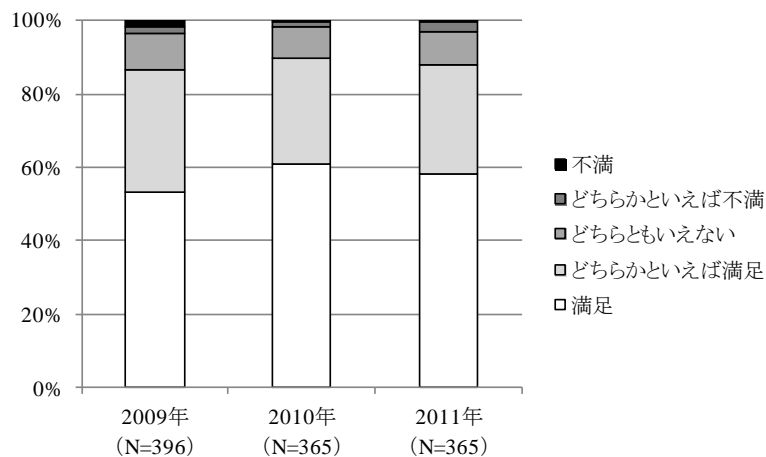


図 23 3・4年次登録のゼミ

7. 就職活動について (図 25~34)

ここからは、就職活動に関する質問項目を検討していこう。まず、図 25 の示すとおり、就職活動をおこなった学生は一貫して 90%前後となっている。はじめて人事面接を受けた時期 (図 29) は 3 時点で大きく変わらないが、就職活動の開始時期は少しずつ早くなっているようだ (図 26、27、28)。

また接触した企業数をみると「エントリーシートを送った企業数」が一貫して増加傾向にある (図 30) にも関わらず、「内定をもらった企業」の数はやや減少傾向にある (図 33)。こうした傾向は、就職活動がより厳しい状態になっていることを示しているのかもしれない。

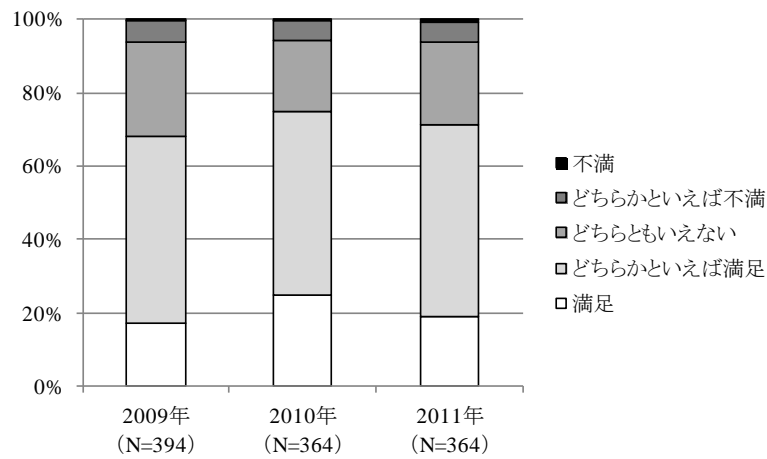


図 24 大学で受けた教育全般

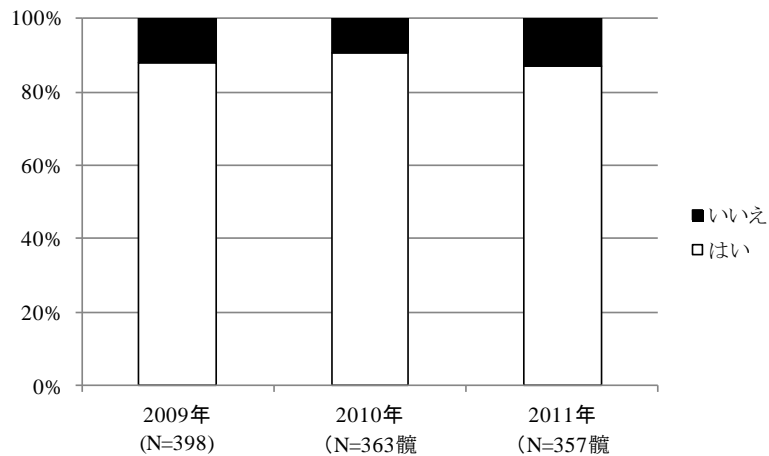


図 25 就活をした

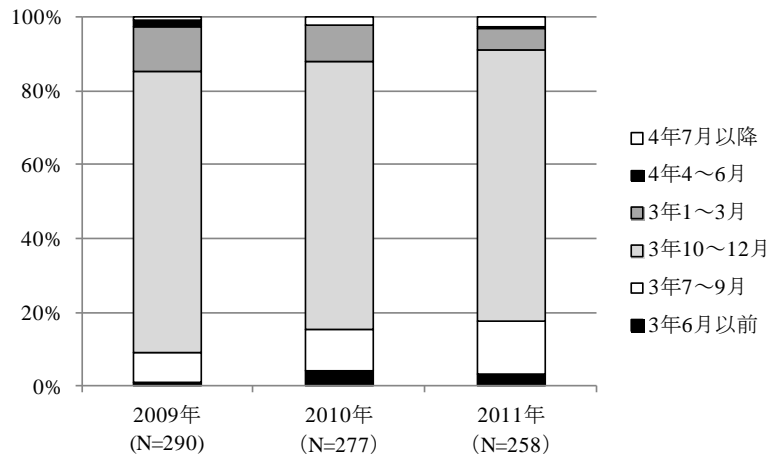


図 26 はじめてガイダンスへ参加した時期

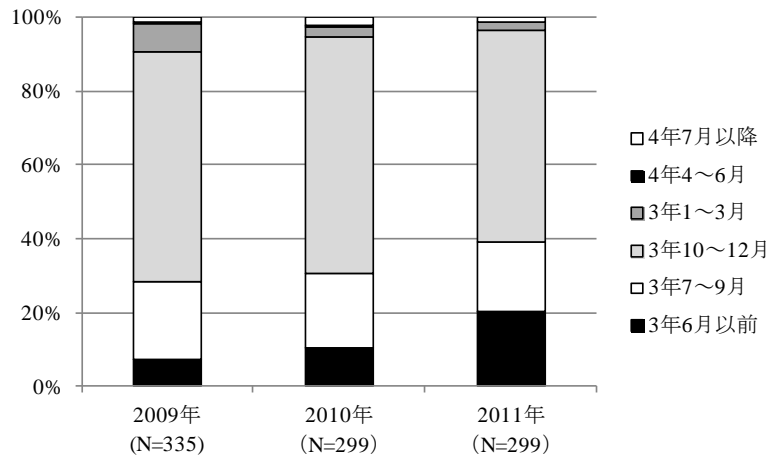


図 27 はじめて就職情報サイトへ登録した時期

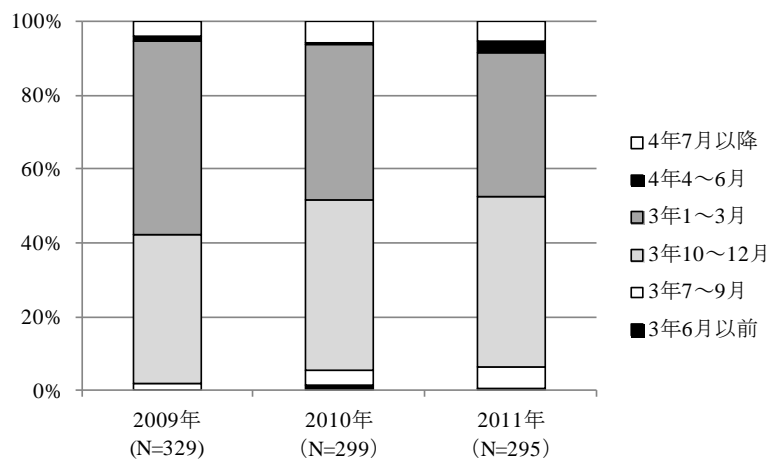


図 28 はじめてエントリーシートを提出した時期

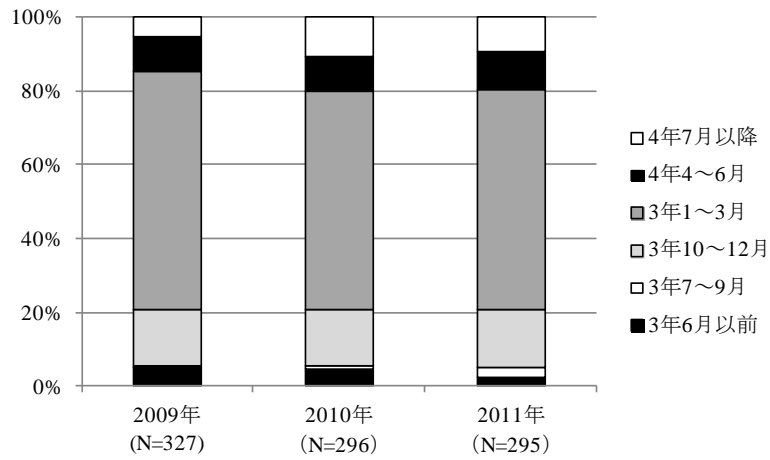


図 29 はじめて人事面接を受けた時期

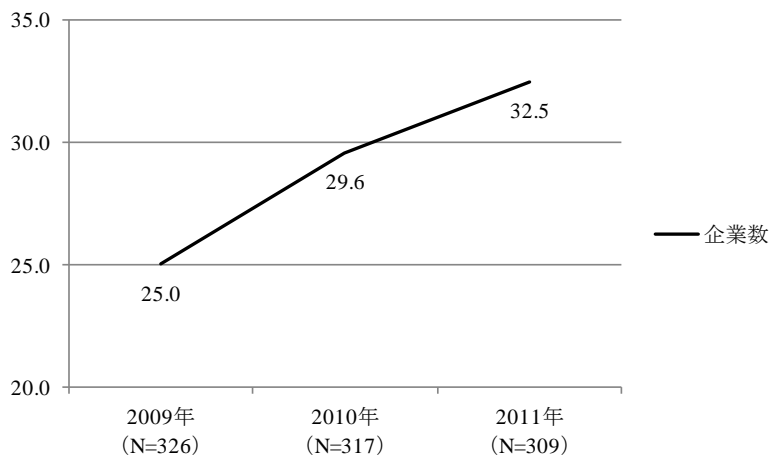


図 30 エントリーシートを送った企業数

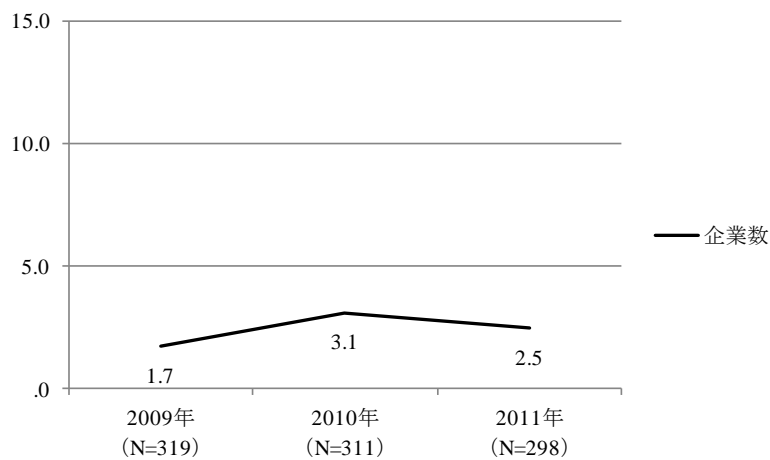


図 31 リクルーターから連絡があった企業

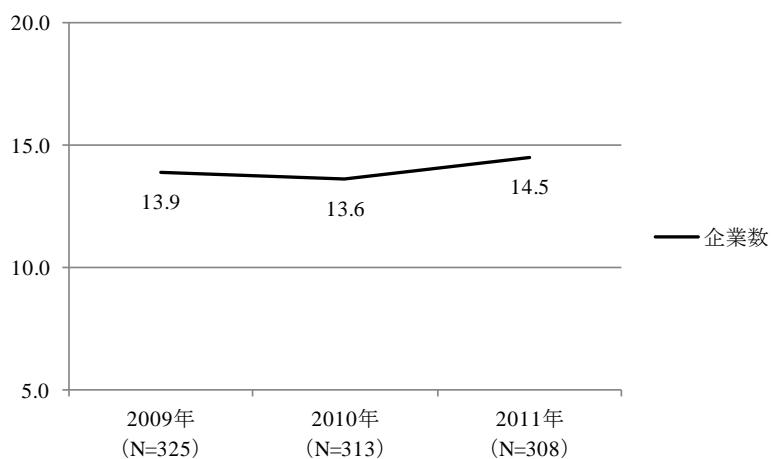


図 32 面接を受けた企業

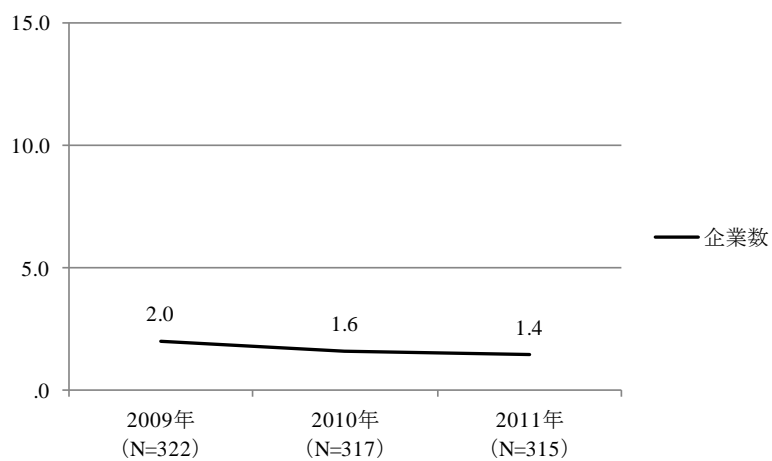


図 33 内定をもらった企業

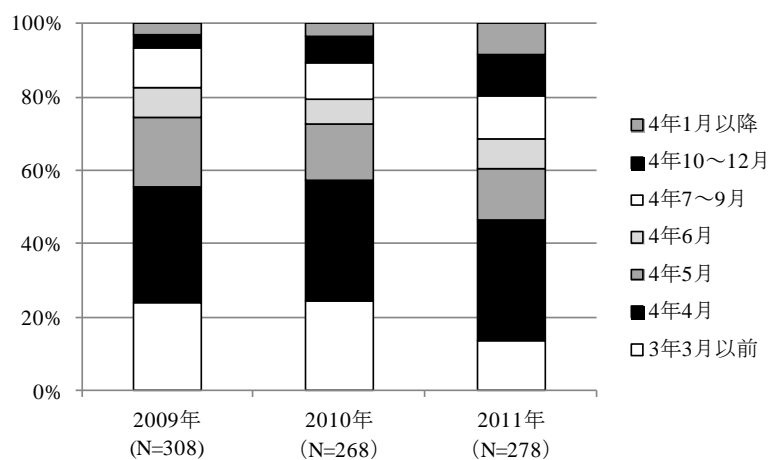


図 34 はじめて内定をもらった時期

8. 卒業後の進路先について（図 35～42）

近年の就職の厳しさが示す結果として、図 35 をみると、卒業後の進路を「未定」「その他」と回答する割合がやや増加傾向にある。また図 37 の示すとおり、就職先の従業員規模もやや小さくなっている。こうしたことから、この 3 年間は、卒業後の進路に多少なりとも変化が生じたと判断できる。

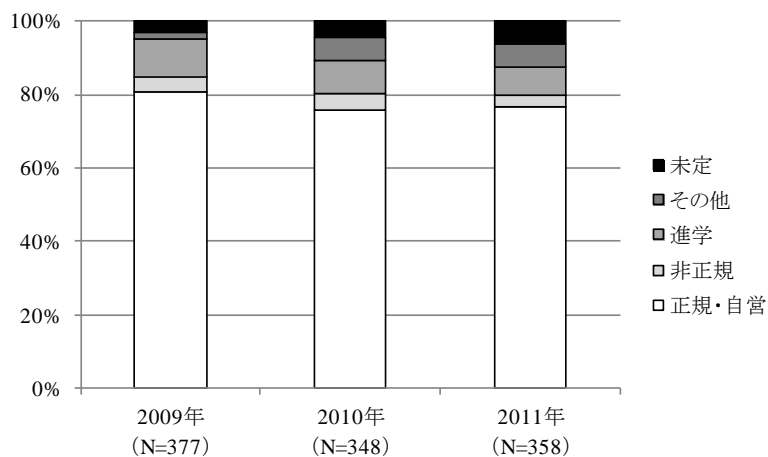


図 35 卒業後の進路

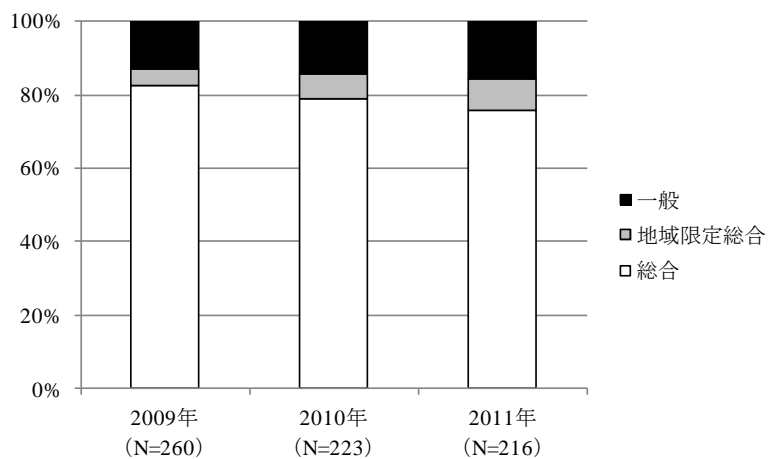


図 36 採用コース

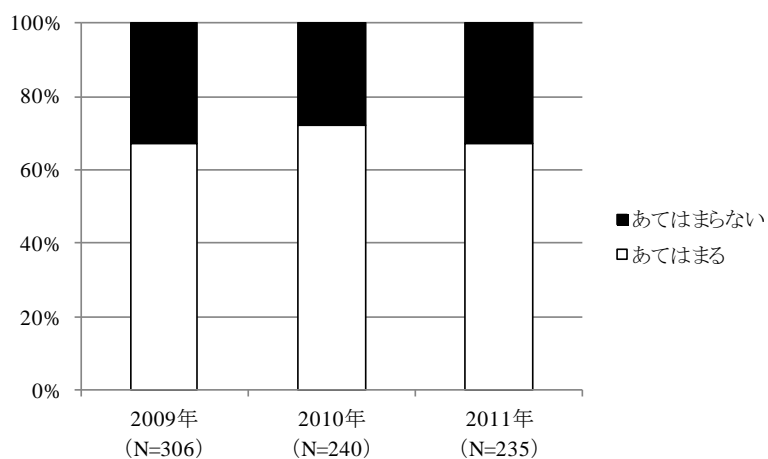


図 40 就職先は育児休暇が取りやすい

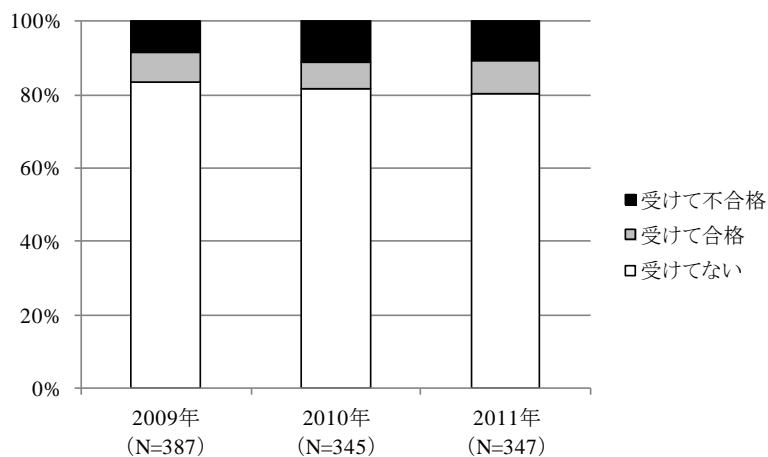


図 41 公務員・教員試験の受験

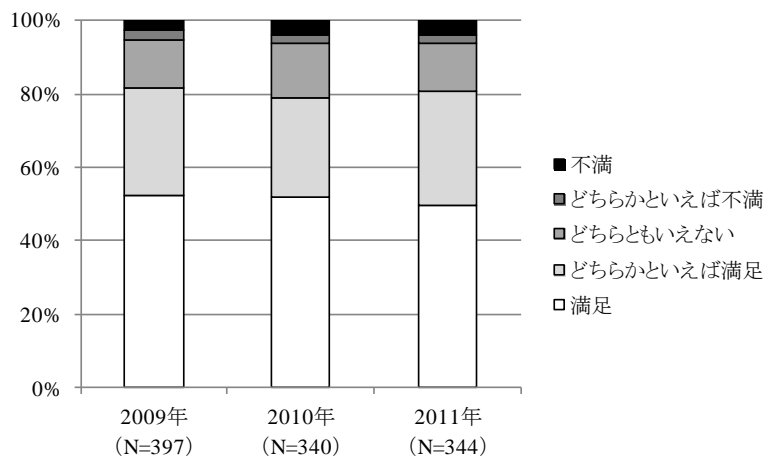


図 42 卒業後の進路満足度

9. さいごに

本稿は、卒業生調査において、繰り返し学生に質問しつづけた項目である「大学の講義に関すること」と「卒業後の進路に関すること」に焦点をおいた。とくに注目すべき分析結果としては、この3年間で、就職活動の厳しさが明らかに増していることである。それにも関わらず、図42が示すように、卒業後の進路満足度に大きな変化がないということは、学生のもつ就職に対する満足の基準が低下しているといえるのかもしれない。就職難が続く昨今、今後も調査を継続することによって、学生の動向を把握していくことは重要であろう。